**全国国際教育研究協議会**

Japan Association For International Education

略称「国際教」「国際研」「JAFIE」「ジャフィー」

**2018（平成30）年度全国総会資料**

日時　2018（平成30）年5月24日（木）　14:30 ～16:30

会場　国際協力機構（JICA）地球ひろば

〒162-8433　東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911　FAX：03-3269-5044

＜＜　事務局連絡先　＞＞

東京都立永山高等学校

全国国際教育研究協議会　事務局長　高島　みゆき

〒206-0025　東京都多摩市永山5-22

TEL 042-374-9891　FAX 042-371-5615

e-mail　　zinfo@jafie.jp

**総会次第**

Ⅰ　開会のことば

Ⅱ　会長挨拶　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　会長　　早川　信一（東京都立多摩工業高等学校長）

Ⅲ　来賓ご紹介及びご挨拶

Ⅳ　議長選出

Ⅴ　議事

１　平成29(2017）年度事業報告 　　　　　　　　　　　　　事務局長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　平成29(201７)年度会計決算及び監査報告（案）　　会計・監事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

３　平成30(2018)年度役員の選出

　　　　　役員の推薦　承認 　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　新会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

　　　　　新役員代表あいさつ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　新会長

４　平成30(2018)年度事業計画（案）審議　 　　　 　 　新事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

５　平成30(2018)年度会計予算（案）審議 　　　 新会計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

　　　６　第55回全国国際教育研究大会東京大会　　　　 東京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Ⅵ　関係諸機関から

１　JICAエッセイコンテストについて　　　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

２　NPO法人　全国国際教育協会

Ⅶ　各都道府県県事務局　意見交流

Ⅷ　閉会のことば

★総会終了後、16:40～　国際教育懇親会を2階Jｓ　Cafeで予定しております。是非、ご出席ください。

参加費は別途徴収します。

**議　事　資　料**

**Ⅴ　議事**

**１　平成29（2017）年度事業報告**

* 1. **第５4回全国国際教育研究大会　岩手大会**

**第５４回全国国際教育研究大会岩手大会**

 **“I wish to be a bridge across the world.”**

**～地域から羽ばたこう、世界へ～**

１　大会趣旨

国際的な相互依存関係が深化し拡大する中で、国際社会が直面する様々な課題を解決することが求められています。その課題を解決する主体者には国や組織といった単位だけではなく、一人ひとりが地球市民としてその解決に取り組むグローバルな視野が必要です。

このグローバルな視野をより一層育むためには、まず自分が住んでいる郷土の魅力を知ることに努め、地域の課題に関心を持つことが大切です。それらを地球規模の問題として捉え直すことで、国際社会の中で自分は何ができるかを考えることができます。また、身近なところに潜む人権問題や環境問題などに関心を持つことは、空間的にも文化的にも隔たりのある海外の課題を理解し、解決しようとする意欲へとつながるのです。

さて、岩手県出身の国際人といえば新渡戸稲造があげられます。稲造の残した言葉に、「われ、太平洋の架け橋とならん」という名言があります。岩手で生を受け、後に国連事務次長まで務めた稲造の精神を受け継ぎ、世界の架け橋となる人物が、岩手そして日本全国から数多く羽ばたいていくことを願ってこのテーマを設定しました。

２　主催 　　　全国国際教育研究協議会

３　共催 　　　国際協力機構　　東北地区国際教育研究協議会

４　主管　　　 岩手県高等学校教育研究会国際教育部会

５　後援　　 　外務省　文部科学省　岩手県　国際交流基金　日本国際協力センター　　青年海外協力協会　全国国際教育協会　　全国高等学校文化連盟

日本教育公務員弘済会岩手支部　秋田県教育委員会　青森県教育委員会　宮城県教育委員会　　岩手県教育委員会

６　会期 　　平成２９年８月８日（火）から８月９日（水）まで

７　会場 　　花巻温泉ホテル千秋閣（岩手県花巻市湯本1-125）

８　大会日程

第１日　８月８日(火)　　　　　　　司会：岩手県立花巻北高等学校放送部

９：３０～１０：００　　 開会行事

主催者挨拶　大会会長（岩手県立花巻北高等学校長） 　　　 　 下町 壽男

 全国国際教育研究協議会会長（東京都立多摩工業高等学校長） 早川　信一

共催者挨拶　独立行政法人国際協力機構東北支部　市民参加協力課長 鍬田　伸利様

来賓挨拶　　外務省国際協力局審議官 　　　　　　　　　　　 増島 稔様

 　　 文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室　教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官

 　　　　　　　　　　　 　下山田　芳子様

 　　 岩手県教育委員会事務局教育長　　　　　　　　　　 高橋　嘉行様

功労者表彰　全国国際教育研究協議会　前会長　　　　　 　 　 宮下　義弘

石川県高等学校国際教育研究協議会　事務局長 　 前田　昌寛

 宮城県高等学校国際教育研究会　常任幹事 　 石森　広美

１０：１５～１２：２５

第３７回英語弁論大会（英語弁論９名）

外務大臣賞　　　　　　　　　　　和歌山県立星林高等学校　　　　 　菅田　利佳

文部科学大臣賞　　　　　　　　　佐野日本大学中等教育学校　　　 　横田　菜々子

国際協力機構理事長賞　　　　　　香川県立三木高等学校　　　　　 　吉田　美和

国際交流基金理事長賞　　　　　　仙台市立仙台青陵高等学校　　　 　木村　佳里奈

日本国際協力センター理事長賞　　盛岡県立盛岡第二高等学校　　　 　東山　楓佳

全国国際教育研究協議会会長賞　　多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校　 正木　向日葵

全国国際教育研究協議会会長賞　　富山県立伏木高等学校　　　　　 　河原　真帆

全国国際教育研究協議会会長賞　　島根県立松江商業高等学校　　　 　福原　啓

全国国際教育研究協議会会長賞　　鹿児島県立甲南高等学校　　　　 　岩元　美月

第１７回日本語弁論大会（日本語弁論６名）

外務大臣賞　　　　　　　　　　　千葉県柏市立柏高等学校　　　 　ミラド　ラジャイ

文部科学大臣賞　　　　　　　　　東京都関東国際高等学校　　　 　 ブダトキ　デヴィ

国際協力機構理事長賞　　　　　　静岡県立静岡城北高等学校　　 　天野　美来

国際交流基金理事長賞　　　　　　富山県立伏木高等学校　　　　 　中川　ロネロ

日本国際協力センター理事長賞　　埼玉県立坂戸高等学校　　 　Dharma Elise Hernandez Pineda

全国国際教育研究協議会会長賞　　岩手県立一関第二高等学校　　　　Lovino Satchi

１３：３０～１４：５０　　　全体交流『国際情勢パーティ』

 　　司会・進行　 　佐藤　漸（聖和学園高等学校教諭）

１５：１０～１６：２０ 　　記念講演

講師　 国際教養大学　理事長・学長　　　鈴木　典比古　氏

 　 　 演題「グローバル化時代の最小単位と最大単位　－個の確立と教養教育－」

１６：４０～１７：１０ 　　　　弁論大会表彰式

 英語弁論大会・日本語弁論大会　講評および結果発表 審査委員長(文部科学省)下山田芳子様

１７：２５～１８：２５ 　　全国事務局長会議

１８：３０～２０：３０ 　（生徒向け）生徒交流会

（教員向け）教育懇談会

第２日　８月９日(水)　　司会：岩手県立花巻北高等学校放送部

９：００～１０：３０ 司会：岩手県立花巻北高等学校放送部

第６回高校生国際理解・国際協力に関する生徒研究発表会

国際協力機構東北支部長賞　　　　　　　　岩手県岩手高等学校

『目指せ、真の国際人!！郷土の先人Respact！!我「世界の架け橋」とならん』

国際交流基金賞　　　　　　　　　　　　　岩手県岩手中央高等学校

『Glibal Citizens for a more peceful and tolerant world』

　日本国際協力センター賞　　　　　　　　　神奈川県立相模原青陵高校

『高校生の視点から作成した日本語教材』

全国国際教育研究協議会会長賞　　　　　　秋田県立由利高等学校

『異文化と異国語を乗り越えて』

国際理解・国際協力奨励賞　　　　　　　　秋田県立西仙北高等学校

『なぜデンマーク人は幸福なのか？－デンマーク社会福祉研修の報告』

国際理解・国際協力奨励賞　　　　　　　　東京都立杉並総合高等学校

『公立高校が普通にできる国際交流：tobitatteみましたTerm F』

１０：４５～１１：４５

（生徒向け）　World Presentation

　　　Arkansas School for Mathematics Sciences and Art(ASMSA)（アメリカ）と台湾の高校生との交流

（教員向け）教員による研究発表分科会

第１分科会

○岩手県岩手中学校・岩手高等学校　　　　　田中　佳恵

『「真の国際人」を目指し、「世界の架け橋」となろう！！～地域と日本の魅力を発見、継承、貢献、創造、発信、成長せよ～』

○東京都立両国高等学校・附属中学校　　　　布村　奈緒子

『英語を学ぶ、英語で学ぶ－国際的に活躍する人材を育てるには－アクティブラーニングと４技能試験対応力』

第２分科会

○神奈川県立相模原青陵高等学校　　　　　　多田　浩樹

『多文化共生社会実現のために～神奈川県立相模原青陵高等学校の取り組み～』

○岩手県立大船渡高等学校　 　熊谷　美奈子　　『世界は目の前に』

１２：００～１２：１５　　　 生徒研究発表会表彰式

　講評・結果発表　　　　　審査委員長　下町　壽男（岩手県立花巻北高等学校長）

１２：２０～１２：４０ 閉会行事

9 　第５４回全国国際教育研究大会　岩手大会　報告書の発行　　平成30年2月

|  |
| --- |
| 第５４回研究大会　2017(平成29)年　　岩手県花巻市（東北地区）「 “I wish to be a bridge across the world”～」地域から羽ばたこう、世界へ～」を大会テーマとして、東北地区共同での開催となった。国際教養大学理事長・学長の鈴木典比古様の講演では、真の国際人としての力について国際教養大学の教育実践などを踏まえた具体的な内容を伺うことができました。また研究発表や分科会では、郷土の魅力を知り、地域の課題から世界的な課題に広げていく活動実践発表されました。まさに、岩手県出身の新渡戸稲造の「われ、太平洋の架け橋とならん」ということばそのものでした。実行委員と生徒の皆様の丁寧な態度と細やかな心配り、そして名湯　花巻温泉を満喫し、身も心もリフレッシュし、アイディアと活力をいただいた大会となりました。（文責：全国事務局長　高島） |

* 1. **全国理事会の活性化**

以下の通り、会の規約改正、活性化等について、多くの全国理事の参加をいただき、議論をしました。

**【第1回全国理事会】**

■日時：　平成２９年（２０１７）年８月８日（月）　１４：００～１７：００

■場所：花巻温泉ホテル千秋閣

■参加者：（敬称略）

【管理職１名】下町（岩手：花巻北）

【教員１３名】細川（岩手：花巻北）、大山（茨城：水戸第二）、田中（千葉：県立船橋）、

女屋（東京：竹早）、竹山（東京：新宿山吹）、中村（東京：瑞穂農芸）、林（東京：永山）、

木村（神奈川：神奈川国際）、 藤田（福井：三国）、宮崎（和歌山：海南）、

談儀（和歌山：南紀）、 中村（高知：伊野商業）、　高島（東京：永山）

**【第２回全国理事会】**

■日時：全国理事会　 平成３０（２０１８）年２月１７日（土）１３：３０～１７：００

■場所：東京都立練馬工業高等学校

■参加者：（敬称略）

　【管理職４名】早川（東京：多摩工業）辻（滋賀：草津東）大泉（東京：五日市）中里（東京：大泉）

【教員１５名】細川（岩手：花巻北）　大山（茨城：水戸第二）　田中（千葉：県立船橋）

 　女屋（東京：竹早） 竹山（東京：新宿山吹）　　中村（東京：瑞穂農芸）

林（東京：永山）　　小林（東京：練馬工業）　　木村（神奈川：神奈川国際）

藤田（福井：三国）　宮崎（和歌山：日高）　　　談儀（和歌山：南紀）

中村（高知：伊野商業）　伊東（宮崎：宮崎学園）　高島（東京：永山）

**1-3インフォメーションの編集印刷**

１）２０１７年度インフォメーション第１３号 　B５版　７６ページ　２０１８年３月末発行

２）印刷部数５９００部

配布内訳：JICAエッセイコンテストに同封して全国各校1校ずつ配布４９００部、

各県事務局２０部×３５＝７００部、全国総会用５０部、研究大会５０部、関係各機関用５０部、

原稿寄稿者用５０部、事務局（賛助会員・未成立研用など）１００部、

３）費用：２０１７年度印刷費用　５０９、７６０円　　　1冊あたり８６．４円

JICAの補助５００，０００円　　全国国際研円の負担９７６０円　今年度の編集は、全国理事木村光宏が担当し、PDFファイルで印刷会社に提出することにより、経費を大幅に削減することができました。

４）編集内容

「第５４回全国国際教育研究大会岩手大会の報告」「各地区からの研究教育実践原稿」の他、今年度の特集として「SDGｓに関する教育実践」を募集し、掲載した。

５）今年度から「PDF化したインフォメーションデーター」を全国国際研HPします。活用お願いします。

**1-4平成２９年度　全国国際教育研究協議会加盟校名簿**

　８月に各事務局長宛てに、添付ファイル(エクセルファイル)で送信しました。

**1-5全国国際教育研究協議会　県・地区活動アンケート**（７月実施）

　２０１６年３月末に行った同様の「県・地区活動アンケート」を実施し、また本会の課題等を分析。

　今後の組織の活性化、組織拡大に役立てた。

**1-6独立行政法人　国際協力機構（ＪＩＣＡ）との連携・協力**

　1 第５４回全国国際教育研究大会岩手大会への「共催」

大会来賓派遣、英語・日本語弁論大会の審査及びJICA理事長賞を授与、国際理解および国際協力に関する研究発表会のの審査及びJICA国内機関長賞を授与していただきました。また、「大会プログラム」「報告書」の印刷経費を支援していただきました。

2国際教育・開発教育インフォメーション第１３号　の発行

　国際研が作成したものをJICAが買い上げる形で発行。

2018年5月JICAエッセイコンテストと同封して全国の高校（約4900校）に配布予定。

3 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2016」の応募勧奨および審査協力

●「１次審査」にご協力いただきました。

宮城５、千葉３、茨城８、東京１０、石川１、愛知５、大阪１、和歌山４、香川２、宮崎３、

未成立県７、NPO国際研　　　合計約９９名

●「最終審査」：早川信一全国会長が審査員として協力。

●エッセイコンテスト応募状況　　　　　　**応募総数　３１、６８５通　　（昨年度比１５９８増）**

**1-７国際研ちらしパンフレット（A4版）の作成**

会の紹介パンフレットを作成し、各県の事務局にデーターで送付しました。

**1-8組織化**

平成２９年４月に、九州ブロックの「佐賀県」「沖縄県」が休会したとの連絡を受けました。２９年度は

３４都府県加盟となり、さらに平成30年3月に「静岡県」から休会の連絡をもらいました。

|  |
| --- |
| 静岡県休会について１　会員校数の減少により会費収入が減り。活動の継続が不可能２　弁論大会への参加校が極端に少ない状況が数年続き、大会運営が困難（平成２６年度１２校、２７年１７校、２８年１６校、２９年１６校）（会費収入：１校３０００円×１６＝４８、０００円） |

　一昨年の静岡県事務局長の吉原高校の中田貴之先生と連絡をとり、今回は休会となるが、引き続き国際教育に興味関心のある先生方や静岡県国際協力員（元JOCV）と連携をとりながら、会の再組織化を図っていただくことになりました。平成３０年度の連絡先：県立吉原高校　中田貴之先生となります。今年度は賛助会員として登録していただきたくことになると思います。

「全国国際研」は、唯一の学校組織の国際教育研究会です。休会県の成立そして活性化を目指していきたい思います。

|  |
| --- |
| 【賛助会員】　**賛助会員（個人加盟）　現在4名（北海道２、山形１．広島１）**」【休会県の現状】（北海道・東北地区）　北海道　、山形、福島（３県）（関東甲信越静地区）新潟、静岡（２県）（東海北陸地区）岐阜（１県）（中国地区）岡山、広島、山口（３県）（九州地区）　福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄（５県）　以上１４県　【休会ブロック】「中国地区」（団体組織） |
| 　　**２　平成２９ (２０１７）年度　会計決算及び監査報告（案）** |
| 　平成２９(２０１７)年４月１日～平成３０(２０１８)年３月３１日 |
| １、収入の部 |  |  |  |  |
| 収入項目 | 予算額 | 決定額 | 差額 | 備考 |
| 会費 | 1,020,000  | 1,020,000  | 0 | 30,000円×34都府県（29年度より佐賀県、沖縄県が休会） \*1 |
| 個人会費 | 0  | 4,000  | 4,000 | １０００円ｘ4名 |
| 賛助金 | 500,000  | 500,000  | 0 | 日本国際協力センター　10/25 |
| 共同事業費 | 500,000  | 500,000  | 0 | インフォメーション印刷代（JICA)　3/22 |
| 雑収入 | 15,000 | 26,008  | 11,008 | 全国総会後懇親会会費（1000x15名）、預金利息（8円）、JICAエッセイコンテスト事務手数料 |
| 前年度繰越金 | 1,014,383  | 1,044,383  | 30,000 | 昨年計上漏れ会費３万ｘ１県 |
| **合計** | **3,049,383** | **3,094,391**  | **45,008** | 　 |
|  |  |  |  |  |
| ２、支出の部 |  |  |  |  |
| 支出項目 | 予算額 | 決定額 | 差額 | 備考 |
| 研究調査費 | 500,000 | 598,464 | 98,464 | 全国理事会旅費・宿泊費等（理事会8月、2月）　 |
| 教育研修費 | 180,000 | 180,000 | 0 | 地区助成金　30,000円×6地区 |
| 研究大会運営費 | 800,000 | 800,000 | 0 | 岩手大会運営費 |
| 共同事業費 | 550,000 | 509,760 | -40,240 | ＪＩＣＡインフォメーション印刷費用 |
| 旅費・交通費 | 150,000 | 75,340 | -74,660 | 岩手大会　文科省下山田調査官、全国事務局長 |
| 通信・運搬費 | 75,000 | 77,163 | 2,163 | 　 |
| 印刷費 | 5,000 | 0 | -5,000 | パンフレット紙代 |
| 消耗品費 | 95,000 | 71,441 | -23,559 | 全国大会楯、賞状、賞状筒、筆耕料他 |
| 会議費 | 40,000 | 40,300 | 300 | 総会会場使用料（9000円）、総会後の懇親会費用 |
| 一般運営費 | 10,000 | 3,240 | -6,760 | 振込手数料 |
| 予備費 | 644,383 | 738,683 | 94,300 | 次年度への繰越金とする |
| 合計 | **3,049,383** | **3,094,391** | **45,008** | 　 |
|  |  |  |  |  |
| ３、収支 |  |  |  |  |
| 収入額 | **¥3,094,391**  |  |  |
| 支出額 | **¥2,355,708**  |  |  |
| 次年度繰越金 | **¥738,683**  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  \*1　＜休会県＞北海道、山形、福島、新潟、岐阜、岡山、広島、山口、福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄　　計１３県＊２　研究調査費は、全国理事会への交通費・宿泊費および休会県への訪問の交通費・宿泊費として支出した。 |
| 会計監査報告 |  |  |  |  |
| 諸帳簿監査の結果、上記決算書は適正であることを認めます |  |
|  |  | 監事 | 立石　武則　　（東京都立小金井北高等学校長） |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  | 齋藤　義弘　　（東京都立農業高等学校長） |

|  |
| --- |
| **３　平成３０(２０１８)年度　全国国際教育研究協議会　全国理事（管理職）（案）** |
| 役職名 | 氏名 | 職名 | 勤務校　住所 | TEL/FAX |
| 全国会長 | 早川　信一 | 校長 | 東京都立多摩工業高等学校　　　　　　　　　　　  | TEL 042-551-3435 |
| 197-0003　東京都福生市熊川215 | FAX 042-551-7592 |
| 副会長 | 千葉　慎作 | 校長 | 秋田県立能代松陽高等学校 | TEL 0186-89-2021 |
| （東北） | 016-0851秋田県能代市緑町4-7 | FAX 0186-52-2112 |
| 副会長 | 大泉　 昌明 | 校長 | 東京都立五日市高等学校 | TEL 042-596-0176 |
| （関東甲信越静・東京大会） | 190-0164あきる野市五日市894 | FAX 042-596-1250 |
| 副会長 | 服部　隆宏 | 校長 | 愛知県立津島高等学校 | TEL 0567-28-4158 |
| （東海北陸） | 496-0853愛知県津島市宮川町3-80 | FAX 0567-28-7196 |
| 副会長 | 田中　仁 | 校長 | 大阪府立住吉高等学校 | TEL 06-6651-0525 |
| （近畿） | 644-0003大阪市阿倍野区北畠2-4-1 | FAX 06-6653-9163 |
| 副会長 | 中條　敏雄 | 校長 | 高松第一高等学校 | TEL 087-861-0244 |
| （四国） | 760-0074香川県高松市桜町2-5-10  | FAX 087-861-0246 |
| 副会長 | 竹下　弘一郎 | 校長 | 宮崎県立宮崎工業高等学校 | TEL　0985-51-7231 |
| （九州） | 880-8567　宮崎県宮崎市天満町9-1 | FAX 0985-51-7287 |
| 理事 | 松岡　正晃 | 校長 | 奈良県立法隆寺国際高校 | TEL0745-74-3630 |
| （第56回奈良大会） | 636-0104生駒郡斑鳩町高安2-1-1 | FAX 0745-75-3286 |
| 理事 | 萩谷　磨 | 校長 | 東京都立山崎高等学校 | TEL 042-792-2891 |
| 195-0074　東京都町田市山崎町1453-1 | FAX 042-794-0440 |
| 理事 | 中里　真一 | 副校長 | 東京都立大泉附属中学校 | TEL 03-3923-4107 |
| 178-0063　東京都練馬区東大泉5-3-1 | FAX 03-3924-9931 |
| 理事 | 江森　忍 | 副校長 | 東京都立大島高等学校 | TEL 04992-2-1431 |
| 100-0101大島町元町字八重の木127 | FAX 04992-2-2461 |
| 監事 | 立石　武則 | 校長 | 東京都立小金井北高等学校 | TEL 042-385-2611 |
| 184-0003　東京都小金井市緑町4-1-1 | FAX 042-382-9522 |
| 監事 | 齋藤　義弘 | 校長 | 東京都立農業高等学校 | TEL 042-362-2211 |
| 183-0056　東京都府中市寿町 1-10-2　　 | FAX 042-360-0642 |

**３－２　平成２９（２０１７）年度　　全国国際教育研究協議会　全国顧問　（案）**

|  |  |
| --- | --- |
| 氏　名 | 役　　職　・　元　勤　務　校　等 |
| 矢田部 正照 | 元全国会長 | 元東京都立農産高等学校長　／現NPO国際教育協会理事長 |
| 豊田　岩男 | 元全国会長 | 元東京都立成瀬高等学校長　 |
| 高田　幸一 | 元全国会長 | 元東京都立雪谷高等学校長 |
| 松本　光正 | 元全国会長 | 元東京都立工芸高等学校長 |
| 宮下　義弘 | 前全国会長 | 前東京都立練馬工業高等学校長 |
| 斉藤　宏 | 元全国事務局長 | 元全国国際教育研究協議会事務局長 |
| 有里　泰徳 | 前全国常任理事 | 前九州地区・宮崎県国際教育研究協議会事務局長 |

|  |  |
| --- | --- |
| **平成３０（２０１８）年度　　全国国際教育研究協議会　全国理事(教員）（案）** |  |
| 役職・担当 | 氏名 | 勤務校 | TEL/FAX |
| 事務局長 | 高島　みゆき | 東京都立永山高等学校 | TEL 042-374-9891 |
| 企画調整全般 | 206-0025　東京都多摩市永山５－２２ | FAX 042-371-5615 |
| 副事務局長 | 女屋　隆充 | 東京都立竹早高等学校 | TEL 03-3811-6961 |
| 生徒研究発表 | 112-0002　東京都文京区小石川4-2-1 | FAX　03-3812-3565 |
| 副事務局長 | 竹山　哲司 | 東京都立新宿山吹高等学校 | TEL　03-5261-9771 |
| 総務渉外 | 〒162-8612　東京都新宿区山吹町81 | FAX　03-5261-9750 |
| 副事務局長 | 林　真代 | 東京都立永山高等学校 | TEL 042-374-9891 |
| 会計　 | 206-0025　東京都多摩市永山５－２２ | FAX 042-371-5615 |
| 常務理事 | 吉野　翔子　 | 東京都立板橋有徳高校 | TEL 03-3937-6911 |
| 英語・日本語弁論大会 | 175-0083　板橋区徳丸2-17-1 | FAX 03-3937-6914 |
| 常務理事 | 太田　進 | 東京都立山崎高等学校 | TEL 042-792-2891 |
| 生徒研究発表・弁論大会 | 195-0074　東京都町田市山崎町1453-1 | FAX 042-794-0440 |
| 常務理事 | 小林　源地 | 東京都立練馬工業高等学校　　　　　　　　　　  | TEL　03-3932-9251 |
| 第55回東京大会事務局 | 179-8909　東京都練馬区早宮2-9-18 | FAX　03-3932-9299 |
| 常務理事（関東甲信越静） | 中村　俊佑 | 東京都立五日市高等学校 | TEL 042-596-0176 |
| 第55回東京大会事務局 | 190-0164あきる野市五日市894 | FAX 042-596-1250 |
| 常務理事 | 木村　光宏 | 横浜県立横浜国際高等学校 | TEL 045-721-1438 |
| インフォメーション・組織拡大 | 232-0066　横浜市六ッ川1-731 | FAX 045-742-9493 |
| 常務理事 | 大山　峰弘 | 茨城県立水戸第二高等学校 | TEL　029-224-2543　 |
| 生徒研究発表 | 310-0062 茨城県水戸市大町2-2-14 | FAX　029-225-5049 |
| 常務理事（東北地区担当） | 石森　広美 | 宮城県仙台二華高等学校 | TEL 022-296-8101 |
| 生徒研究発表・組織拡大 | 仙台市若林区連坊1-4-1 | FAX 022-296-8103 |
| 常務理事（東海北陸担当） | 藤田　博雅 | 福井県立三国高等学校 | TEL 0776-81-3255 |
| 英語・日本語弁論大会 | 913-8555　福井県坂井市三国町緑ヶ丘2-1-3 | FAX　0776-81-3566 |
| 常務理事（近畿地区担当） | 宮崎　裕之 | 和歌山県立日高高等学校 | TEL　0738-22-3151 |
| 英語・日本語弁論大会　 | 644-0003　和歌山県御坊市島45 | FAX　0738-23-2922 |
| 常務理事（近畿地区担当） | 談儀　善弘 | 和歌山県立南紀高等学校 | TEL　0739-22-3776 |
| 組織拡大 | 646-0024　和歌山県田辺市学園1-88 | FAX　0739-26-0792 |
| 常務理事 | 前田　忠彦 | 奈良県県立法隆寺国際高校 | TEL　0745-74-3630 |
| 第56回奈良大会事務局　 | 636-0104生駒郡斑鳩町高安2-1-1 | FAX　0745-75-3286 |
| 常務理事（四国地区担当） | 森　恵美子 | 愛媛県立伊予農業高等学校 | TEL 089-982-1225　 |
| 生徒研究発表 | 799-3111　愛媛県伊予市下吾川　1433 | FAX　089-983-4177 |
| 常務理事（九州地区担当） | 伊東　望 | 宮崎学園中学・高等学校 | TEL 0985-23-5318 |
| 組織拡大 | 880-8503　宮崎県宮崎市昭和町3 | FAX　985-27-7202 |

**４　平成３０(２０１８)年度　事業計画　(案)**

**4-1平成３０年度の活動方針案**

|  |
| --- |
| グローバル化、グローバル人材の育成、オリンピック・パラリンピック教育と現在ほど「国際教育の重要性」がうたわれている時期はない。以下の項目について重点的に活動を広げていく。１、国際理解・国際協力に関する研究発表会の充実（各県・地区での実施）２、休会県の個人加盟及び再加盟の周知（組織強化）３、グローバル化、SDGなど社会にむけた教材開発促進４、他団体（NGO/NPO/国連関連団体／大学等）や他組織（国際学科／SDHなど）との連携強化 |

**4-2今後の全国国際教育研究大会　大会開催県について**＊改正点など重要な箇所はアンダーラインをつけてあります。

以後、全国研究大会は地区の輪番で行うこととする。

現在の加盟状況は、東北地区４県、関東甲信越静地区１０県、東海北陸地区５県、近畿地区６県、四国地区４県＋中国地区２県、九州地区５県⇒3県である。関東甲信越静地区は県数が多いことから＋１の輪番と考えると、7年に1回全国大会（関東甲信越静は2回）がまわってくることになる。近年の開催状況を踏まえて、以下のように大会を開催する。なお、特別な事情の場合、相互の地区の了承が得られれば、順番をかえることもできる。

2018③関東　⇒2019④近畿　⇒2020⑤東海北陸　⇒2021⑥九州⇒2022⑦関東　⇒2023①四国・中国

⇒2024②東北　⇒2025③関東　⇒2026④近畿　⇒2027⑤東海北陸

全国国際教育研究大会　大会開催県・地区（案）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大会回 | 弁論大会（英語・日本語） | 西暦 | 平成 | 月日 | 開催地 | 開催県 | ブロック |
| 38回 | 第21回英語弁論　第１回日本語弁論　 | 2001 | 13 | 8.23～24 | 愛媛県・にぎたつ会館 | 愛媛 | 四国 |
| 39回 | 第22回英語弁論　第２回日本語弁論 | 2002 | 14 | 8.19～20 | 東京都・協力隊広尾訓練研修ｾﾝﾀｰ | 東京 | 関東 |
| 40回 | 第23回英語弁論　第３回日本語弁論 | 2003 | 15 | 8.23～24 | 熊本県・水前寺共済会館 | 熊本 | 九州 |
| 41回 | 第24回英語弁論　第４回日本語弁論 | 2004 | 16 | 8.19～20 | 神奈川メルパルクYOKOHAMA | 神奈川 | 関東 |
| 42回 | 第25回英語弁論　第５回日本語弁論 | 2005 | 17 | 8.22～23 | 宮城県・仙台ガーデンパレス | 宮城 | 東北 |
| 43回 | 第26回英語弁論　第６回日本語弁論 | 2006 | 18 | 8.24～25 | 長野県・駒ヶ根総合文化センター | 長野 | 関東 |
| 44回 | 第27回英語弁論 第７回日本語弁論 | 2007 | 19 | 8.23～24 | 島根県・出雲市　ビッグハート出雲 | 島根 | 中国 |
| 45回 | 第28回英語弁論 第８回日本語弁論 | 2008 | 20 | 8.21～22 | 埼玉県浦和コミュニティーセンター | 埼玉 | 関東 |
| 46回 | 第29回英語弁論 第９回日本語弁論 | 2009 | 21 | 8.21～22 | 青森県八戸市ウェルサンピア八戸 | 青森 | 東北 |
| 47回 | 第30回英語弁論 第10回日本語弁論 | 2010 | 22 | 8.20～21 | 茨城県・つくば市　筑波学院大学 | 茨城 | 関東 |
| 48回 | 第3１回英語弁論 第11回日本語弁論 | 2011 | 23 | 8.18～19 | 和歌山県和歌山市和歌山ビック愛 | 和歌山 | 近畿 |
| 49回 | 32回英語弁論 12回日本語　第1回研究発表 | 2012 | 24 | 8.23～24 | 東京都JICA球ひろば（広尾） | 東京 | 関東 |
| 50回 | 33回英語弁論 13回日本語　第2回研究発表 | 2013 | 25 | 8.22～23 | 宮崎県 宮崎市民プラザ | 宮崎 | 九州 |
| 51回 | 34回英語弁論 14回日本語　第3回研究発表 | 2014 | 26 | 8.７～8.　 | 福井県AOSSA（福井県民ホール） | 福井 | 東海北陸 |
| 52回 | 35回英語弁論 15回日本語　第4回研究発表 | 2015 | 27 | 8.20～21 | 千葉県　神田外語大学 | 千葉 | 関東 |
| 53回 | 36回英語弁論 16回日本語　第5回研究発表 | 2016 | 28 | 8.18～19　 | 高知県　県立県民文化ホール | 高知 | 四国 |
| 54回 | 37回英語弁論 17回日本語　第6回研究発表 | 2017 | 29 | 8.7～8 | 岩手県花巻市花巻温泉 | 岩手 | 東北 |
| 55回 | 38回英語弁論 18回日本語　第7回研究発表 | 2018 | 30 | 8.7～8 | 東京　JICA地球ひろば（未定） | 東京 | 関東 |
| 5６回 | 3９回英語弁論 19回日本語　第8回研究発表 | 201９ | 31 |  | 奈良県 | 奈良 | 近畿 |
| 57回 | 40回英語弁論 20回日本語　第9回研究発表 | 2020 | 32 |  | 以下は未定 |  | 東海北陸 |
| 58回 | 41回英語弁論 21回日本語　第10回研究発表 | 2021 | 33 |  |  |  | 九州 |
| 59回 | 42回英語弁論 22回日本語　第12回研究発表 | 2022 | 34 |  |  |  | 関東 |
| 60回 | 43回英語弁論 23回日本語　第13回研究発表 | 2023 | 35 |  |  |  | 四国中国 |
| 61回 | 44回英語弁論 24回日本語　第14回研究発表 | 2024 | 36 |  |  |  | 東北 |
| 62回 | 45回英語弁論 25回日本語　第15回研究発表 | 2025 | 37 |  |  |  | 関東 |
| 63回 | 46回英語弁論 26回日本語　第16回研究発表 | 2026 | 38 |  |  |  | 近畿 |

**4-3　高校生英語弁論大会・高校生日本語弁論大会に関する細則の改定**

母語とは何かの規定が非常に難しいため、その言語を日常生活で使用していなかった生　徒という意味合いをもたせた。

**高校生英語弁論大会**

（２）参加資格（以下のすべての条件を満たしていること）

１） 各都道府県の国際教育研究協議会に加盟する高等学校の生徒

２） 各都道府県の国際教育研究協議会及び各ブロックにおける選考会を経て選出された生徒

３） 英語を母語としない生徒または日常生活で英語を使用していない生徒。在外経験は特に問わない

　　　　　　　　　　　　　　　　　追加

**高校生日本語弁論大会**

（２）参加資格（以下のすべての条件を満たしていること）

１） 各都道府県の国際教育研究協議会に加盟する高等学校の生徒または留学生

２） 各都道府県の国際教育研究協議会及び各ブロックにおける選考会を経て選出された生徒

３） 日本語を母語としない生徒、または日常生活で日本語を使用してこなかった生徒で、在日期間が8年以内の生徒。　　　　　　　　　　追加

**4-4　インフォメーションの編集・発行について**

１）２０１８年度インフォメーション第１４号

目的：１全国国際教育研究協議会の研究活動報告、

２学校現場における国際教育の普及･発展を目指し、各地の優れた実践を共有し、研究を深めること

今までJICA様から、印刷代のご支援をいただき、共同事業として発行しておりましたが、今後は、JICAと国際研で検討中です。引き続き発行はしていきたいですが、内容については未定です。詳細は、後日お知らせいたします。

　２）「PDF化したデーター」を全国国際研HPする。

**4-5　加盟校名簿**

１）　５月末までにに、事務局から、各都道府県の「昨年度のデーター」をemailで送ります。

２）　各県事務局長は、６月３０日までに　指定されたアドレスまで、データーで送り返してください。

３）　加盟校名簿は、岩手大会までに各県に配布します。（添付ファイル（エクセルデーター）でお送りします）

**4-6　全国組織の拡充・連携（休会県などのへのアプローチ）**

【休会県】北海道、山形、福島、新潟、静岡、岐阜、岡山、広島、山口、福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄の１４県

【休会地区】中国地区

　　全国国際教育研究協議会の大きな強みは、「国際・開発教育における唯一の学校現場の全国組織」です。今後も全

県加盟に向けて連携を深めていきたいと思います。

○休会県には、会則改定（ｐ１９）「**賛助会員**としての**個人加盟　現在4名（北海道２、山形１．広島１）**」や

「再加盟」を働きかけていきたいと思います。

○加盟校数が少ない県には、どうしたら加盟校を増やすことができるか、また活動を活性化するために何が必要か、意義のあるそして魅力ある研究会にするにはどうしたらよいか検討していきたいと思います。

○他団体のＪＩＣＡ、国際交流基金、青年海外協力協会（JOCA）、日本国際協力センター（JICE）、ユネスコスクール加盟校、ESD推進校研究会、多文化共生の研究会、開発教育協会　青年海外協力隊OB会他などとも連携・協力していきたいと思います。

　○昨年度に引き続き、全国理事で直接県を訪問するなどして、会員拡大、組織作りをしていきたいと思います。

**4-7　「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2017」応募勧奨と審査への協力について　（案）**

　（参照　P17～18）

１）今年で「５７回目」になる「JICAエッセイコンテスト」ですが、国際研は、当初からJICAエッセイコンテストに協力してきました。

今年度の協力内容は例年通り以下のようになっています。

1. 1次審査：「全国国際研」「NPO国際研」の合同
2. 【新規】２次審査：JICA支部ごとに国際研から審査員１名参加・・・詳細は6月にお知らせします。

2次審査員は、1次審査に参加しないでください。

1. 最終審査員：早川　国際研全国会長

④　全国国際研が「後援」

２）「1次審査」のお願い

　○審査を行うことで、JICAエッセイコンテストをよりご理解いただき、コンテストの周知をお願いしたい。

　○「県事務局に事務手数料11000円」と「審査員に審査謝金1通につき108円」が支払われます。

エッセイ事務局から、「兼業願」を出していただきます。

○事務手数料および審査謝礼を研究会の活動資金としてお使いいただいている県もございます。

○審査は、基本1人300作品前後を審査します。150作品前後から1作品を選びます。

○審査員は、昨年度実績で約100名に先生方のご協力が必要です。

|  |
| --- |
| ＜１次審査　申し込みについて＞１）7月1３日（金）までに、1次審査にご協力いただける都道府県事務局は、全国事務局まで申し出てください。だいたい何人くらい審査員が可能かご連絡ください。２）8月2４日（金）までに、各都道府県事務局は、所定の用紙に、審査員氏名、所属校名、連絡先、送付先、振込先等を記入して、エッセイ事務局までemailでお送りください。3）審査期間：9月18日（火）発送～10月１４日（日）必着で、返送してください。　　実施団体　青年海外協力協会（JOCA　ｼﾞｮｶ）　　 |

**4-8　教育功労者推薦書式**本会よりの表彰　全国研究大会（東京大会）の開会式にて感謝状贈呈します。

　　　６月３０日までに、事務局長(高島)アドレス**zenfo@jafie.jp** 電子メールでご連絡ください。

全国事務局にお問い合わせ下さい。「添付ファイル」で申込みください。

**4-9　平成３０年度会費の納入**

　　　締切　7月3１日までに、会費３０，０００円を振り込みください。

振り込み後、全国会計にFAXで「振り込み月日」をご連絡ください。

|  |
| --- |
| 送金先：　三井住友銀行　　新宿西口支店　普通預金　　　　　　店番号２５９　　　　口座番号９２５９８８７　　　　　　名　義　　　　　　　全国国際教育研究協議会 |

**【全国会計】**　　　　東京都立永山高等学校　　　　　　　林　真代（まさよ）

〒206-0025　　東京都多摩市永山5-22　　TEL 042-374-9891　　　　FAX 042-371-5615

e-mail　　Masayo\_Hayashi@education.metro.tokyo.jp

**4-10　研究助成**

地区ブロック協議会への助成・・・「1ブロック3万円ずつ」年度ごとに助成します。

東北・関東甲信越静・東海北陸・近畿・（＊中国ブロック＝現在未成立）・九州の６ブロック。

申請書（書式は任意。ブロック会長印を押印）を、締切り12月25日までに全国事務局会計まで郵送してください。その後助成金の支払いが行われます。（注意！自動的に支払われるものではありません）

ブロック助成金申請書式　　ブロック事務局校のみに配布しています。１２月２５日までに、ブロック公印を押印した文書(書式は任意)で申請をお願いします。

**4-11　Webネットワークの運営拡充**

１）各都道府県事務局との電子メールでの連絡

従来に引き続き、全国から各県事務局は、電子メールで行いたいと思います。

　　　**zinfo@jafie.jp**全国会長、全国事務局長、広報など全国事務局理事の複数に同時に送信されます。

　　　　　　　　　　　　　　　連絡があれば、このアドレスを使用してください。

**zen\_staff@jafie.jp**全国事務局長、広報など全国事務局から、各都道府県事務局に一斉送信され

るものです。これをそのまま「返信」しても送信できません。（一方通行です）

全国事務局への連絡は、上記zinfo@jafie.jpを使用して返信ください。

２）　全国国際教育研究協議会サーバドメイン名　　　　★　全国国際教育研究協議会HP　　　<http://jafie.jp>

　ドメイン名　　jafie . jp

 ※jafie･･･　Japan Association For International Education　の略（ジャフィー）jp…　JPドメイン

３）　全国組織URLアドレス

　http://jafie.jp

４）　構成

　　　　http://jafie.jp-----/taikai

 　 -----/tokyo

 　 -----/…各県や別グループによるフォルダ領域

　　　　例１）　全国大会のアドレス：　http://jafie.jp/taikai/　　　　　　例２）　東京都のアドレス：　http://jafie.jp/tokyo/

**4-12　理事会の予定と交通費等の支出について**

１）２０１８年（平成３０年度）年予定

第1回全国理事会：２０１８（平成３０）年８月６日（月）１３：３０～１７：００　東京大会前日

第２回全国理事会：２０１９（平成３１）年２月１６日（土）１３：００～１７：００　（予定）都内高校

2）全国会計「調査研究費」として以下の項目を支出しております。

　 ○第１回全国理事会（８月全国大会前日）：交通費及び宿泊費

○第２回全国理事会（２月）：交通費及び宿泊費

○休会県への会再発足への依頼訪問

|  |  |
| --- | --- |
| **５　平成３０年度(２０１8）　予算(案)** |  |
| 　平成30(2018)年４月１日～平成31(2019)年３月３１日 |  |
| １、収入の部 |  |  |  |  |
| 収入項目 | 予算額 | 前年度決定額 | 差額 | 備考 |
| 会費 | 990,000  | 1,020,000  | -30,000 | 30,000円×33県（30年度より静岡県が休会） |
| 個人会費 | 4,000  | 4,000  | 0 | 29年度4名個人会員加入 |
| 賛助金 | 500,000  | 500,000  | 0 | 日本国際協力センター |
| 共同事業費 | 0  | 500,000  | -500,000 | インフォメーション印刷代（JICA) |
| 雑収入 | 15,000 | 26,008  | -11,008 | 全国総会後懇親会会費、預金利息等 |
| 前年度繰越金 | 738,683  | 1,044,383  | -305,700 | 　 |
| **合計** | **2,247,683** | **3,094,391**  | **-846,708** | 　 |
| 　 　　＜休会県＞北海道、山形、福島、新潟、岐阜、静岡、岡山、広島、山口、福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄　計１4県 |
| ２、支出の部 |  |  |  |  |
| 支出項目 | 予算額 | 前年度決定額 | 差額 | 備考 |
| 研究調査費 | 400,000 | 598,464 | -198,464 | 全国理事会旅費・宿泊費等　 |
| 教育研修費 | 180,000 | 180,000 | 0 | 地区助成金　30,000円×6地区 |
| 研究大会運営費 | 600,000 | 800,000 | -200,000 | 東京大会運営費 |
| 共同事業費 | 0 | 509,760 | -509,760 | 　 |
| 旅費・交通費 | 20,000 | 75,340 | -55,340 | 東京大会　文科省、全国会長・事務局長 |
| 通信・運搬費 | 80,000 | 77,163 | 2,837 | 　 |
| 印刷費 | 105,000 | 0 | 105,000 | インフォメーション印刷費用 |
| 消耗品費 | 95,000 | 71,441 | 23,559 | 全国大会楯、賞状、賞状筒、筆耕料他 |
| 会議費 | 40,000 | 40,300 | -300 | 総会会場使用料、総会後の懇親会補助 |
| 一般運営費 | 10,000 | 3,240 | 6,760 | 振込手数料他 |
| 予備費 | 717,683 | 738,683 | -21,000 | 次年度への繰越金とする　＊１ |
| 合計 | **2,247,683** | **3,094,391** | **-846,708** | 　 |
|  |  |  |  |  |
| ＊１　会費の納入前に、研究大会運営費が必要になるため、次年度への研究大会運営費として予備費を計上している。 |

**第55回全国国際教育研究大会(東京大会)開催要項　（案）**

**大会テーマ**

**「東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を控えた多文化共生社会の在り方を求めて」**

１　大会趣旨

国際的な相互依存関係が深化し拡大する中で、国際社会が直面する様々な課題を解決することが求められています。その課題を解決する主体者には国や組織といった単位だけではなく、一人一人が地球市民としてその解決に取り組むグローバルな視野が必要です。このグローバルな視野をより一層育むためには、まず自分が住んでいる郷土の魅力を知ることに努め、地域の課題に関心をもつことが大切です。それらを地球規模の問題として捉え直すことで、国際社会の中で自分は何ができるかを考えることができます。また、身近なところに潜む人権問題や環境問題などに関心をもつことは、空間的にも文化的にも隔たりのある海外の課題を理解し、解決しようとする意欲へとつながります。次世代を担う高校生とともに、これらの課題を考える機会として、本大会のテーマを設定しました。

２　主催　　　全国国際教育研究協議会

３　共催　　　関東甲信越静地区高等学校国際教育研究協議会　　独立行政法人国際協力機構（JICA）

東京都教育委員会

４　主管　　　東京都国際教育研究協議会

５　後援・協賛（申請予定を含む）

　　　　　　　外務省 ・文部科学省 ・一般財団法人日本国際協力センター ・独立行政法人国際交流基金・

神奈川県教育委員会・千葉県教育委員会・埼玉県教育委員会・茨城県教育委員会・栃木県教育委員会・

群馬県教育委員会・新潟県教育委員会・長野県教育委員会・山梨県教育委員会・静岡県教育委員会・

公益社団法人青年海外協力協会・特定非営利活動法人全国国際教育協会

６　日時　　平成３０年８月７日（火）　９：３０～１７：３０

８月８日（水）　９：００～１２：４０

７　会場　　国際協力機構（JICA）地球ひろば

〒162-8433　　東京都新宿区市谷本村町10-5（JICA市ヶ谷ビル内）　　TEL: 03-3269-2911

８　大会日程（案）

第１日目 平成３０年８月７日（火）

9:00- 9:30 ・受付（2階　国際会議場前ロビー）

9:30-10:00 ・開会行事（2階　国際会議場）主催者等挨拶、功労者表彰、諸連絡

10:15-12:30 ・第38回高校生英語弁論大会・第18回高校生日本語弁論大会（2階　国際会議場）

12:30—13:30 ・昼食 / 休憩 （J’s Caféから仕出し、11:00-14:30　6階６００）

13:30-14:30 ・研究・実践発表（東京都教育委員会）（2階　国際会議場）

東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を控えた多文化共生社会の在り方に関して、高校生なども含む全参加者を対象とした講話または東京都教育委員会としての重要施策の紹介や助言指導

14:40-16:20 ・第7回国際理解・国際協力に関する高校生研究発表会（2階　国際会議場）

* 多言語交流部（ワン・ワールド）からのメッセージ

東京都立一橋高等学校　多言語交流部

* 食を通しての異文化理解

横浜清風高等学校　横浜清風インターアクトクラブ

* 「地方都市のインバウンド対策の現状」と「多文化共生の今後のあり方」について（研究→取材／調査→発見→発信活動の報告とその成果）

立岩手高等学校　国際交流部

* ニューカマー外国人への防災教育

兵庫県立柏原高等学校　ボランティア部（インターアクトクラブ）

* アフリカ、マラウイの保健衛生概念・状況の向上

宮崎学園中学・高等学校　インターアクト部

* 「DREMS COME TRUE ～みんなの想いと共に～」

徳島県立徳島商業高等学校　ビジネス研究部　校内模擬会社ComCom

* 空飛ぶ車いす

東京都立多摩工業高等学校

16:20-16:50 ・後援団体の団体紹介（1団体2分程度）

　　　　　　　　 ・台湾生徒研究発表（10分程度）

16:50-17:30 ・表彰式（2階　国際会議場）

弁論大会および研究発表会の講評・審査結果発表、諸連絡、記念撮影

18:00-20:00 ・生徒交流会「地球体験学習　60分体験型コース」（1階　体験ゾーン及び市民のひろば）

18:30-20:30 　・教育懇談会（2階　J’s Cafe）

第２日目　 平成30年８月８日（水）

8:30- 8:50 ・受付（2階　国際会議場前ロビー）

9:00-11:00 ・教育実践発表会（分科会）（2階　２０２ＡＢ・大会議室・国際会議場）

 ※分科会は前後半に分けて、2発表行う予定。

【教員対象】

* TOKYO GLOBAL GATEWAYについての発表（東京都教育委員会）
* 海外フィールドワーク・ステディツアーの構築に関する報告

都立順天高等学校　教諭 三井田真由美

* 国内における多文化共生

東京都立一橋高等学校　教諭　角田仁

* 持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に関する授業実践報告

東京工業大学附属科学技術高等学校

　　【生徒対象】

* ワークショップ：SDGsの理解を深めるワークショップ

東京都立武蔵高等学校　教諭　山藤旅聞

11:15-12:15 ・記念講演「義肢装具士が見たパラリンピック」（2階　国際会議場）

　　　　　　　　　　　　講師：高橋 俊潤氏（オットーボック・ジャパン株式会社、元青年海外協力隊員）

12:20-12:40 ・閉会行事（主催者挨拶、次期開催県挨拶、諸連絡）（2階　国際会議場）

９　記念講演

講師　　　高橋 俊潤（オットーボック・ジャパン株式会社）

〔略歴〕1990年4月から2年間、青年海外協力隊の図学隊員としてバングラデシュで活動した。

2008年にオットーボック・ジャパン(株)に入社し、主に自社製品の修理に従事し現在に至る。

2016年のリオデジャネイロパラリンピック夏季大会、2018年のピョンチャンパラリンピック冬季大会に修理要員（義肢装具士）として参加した。

10経費

（１）　大会参加費 教　員　　　３，０００円（1日・2日参加でも同額）

 一　般　　　１，０００円（1日・2日参加でも同額）

　　　　　　　　　　　　　高校生以下は無料

（２）　教育懇談会参加費 一人３０００円

**Ⅶ　関係諸機関から**

**１ JICA高校生エッセイコンテスト**　（参照　P17～18）

**２ 拓殖大学　第２０後藤新平・新渡戸稲造記念　高校生・留学生作文コンクール**

　全国国際研が「後援」しています。詳しくは、拓殖大学HPをご覧ください。

|  |
| --- |
| 応募期間：　平成30年７月1日（日）～9月10日（月）必着テーマ　　：**「２０２０年、その時私は」**　　　　　　　「２０２０年」への思いを、「国際協力」「国際理解」「社会貢献」の観点から書く。　原稿用紙：　A4原稿用紙　横書き　4枚以上5枚以内表彰　　　：　後藤新平賞（最優秀賞）1点（賞状、奨学金20万円）　　　　　　　　読売新聞社賞1点（賞状、奨学金10万円）　　　　　　　　優秀賞４点（賞状、奨学金5万円）　　　　　　　　入賞５点（賞状、奨学金３万円）　　　　　　　　奨励賞２０点（賞状、１万円図書カード） |

**３ ＮＰＯ国際研(国際教育協会/JAGE)**　　**名称　特定非営利活動法人　全国国際教育協会(JAGE)**

理事長：矢田部　正照（元全国会長）

詳しくは、JAGEのHPをご参照ください。　http://www.kokusaiken.org/npo/index.htm

国際研をサポートし、国際研でできなかった（できにくい）分野を強化し、国際教育を推進します。

全国国際研と並立組織で、協力関係を維持し、退職校長など国際研OBを中心に声をかけ、各地での地区委員会組織を作っていきます（退職校長やOBの人脈と専門性を最大限活用）

**「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018」実施要領（案）**

１　事業概要

　　本事業は、1962年度に「海外移住懸賞作文」として開始され、2018年度で高校生の部が57回目を数える歴史の長い事業である（中学生の部は23回目）。（全国国際研は当初から審査に協力しております）

２　事業目的

次世代を担う中学生・高校生に対して、エッセイを書くという行為を通じて、国際協力について考えてもらうきっかけを提供し、開発課題や国際協力への興味・関心を高める。

３　実施体制

（１）主催　　独立行政法人　国際協力機構（JICA）

（２）後援（予定）　外務省、文部科学省、世界銀行東京事務所、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国国際教育研究協議会、日本私立中学高等学校連合会、読売新聞社、産経新聞社、特定非営利活動法人開発教育協会、NHK、各都道府県教育委員会及び政令指定都市教育委員会、各都道府県青年海外協力隊ＯＢ会

（３）最終審査員（予定）敬称略

（高校生の部）星野　知子　　 審査員長（女優／エッセイスト）

早川　信一　　（全国国際教育研究協議会 会長）

石井　聡　　　（産経新聞東京本社 論説委員室　論説委員長）

田中　一史　　（全日本空輸株式会社東京支店第二法人販売部　部長）

宮崎　成人　　（世界銀行 東京事務所 駐日特別代表）

西　健太郎　　（株式会社スクールパートナーズ高校生新聞事業部　編集長）

（中学生・高校生共通）

　　　　　　　　小山内　美江子　名誉審査員長　（脚本家／JHP・学校をつくる会代表理事）

増島　稔（外務省国際協力局審議官）

天田　聖　　（JICA地球ひろば　所長）

井倉　義伸　（JICA国内事業部長）

４　募集テーマ　　　　　「世界の幸せのために私たちができること」

５　募集期間（予定）2018年6月8日(金)から同年9月11日(火)まで

６　審査期間（予定）一次審査；2018年9月18日(火) ～ 10月14日(日)

二次審査；2018年10月20日(土) ～ 11月11日(日)

最終審査；2018年12月13日(木)

７　表彰式　　　2019年2月23日（土）於JICA市ヶ谷ビル（予定）

８　賞（予定、中学生・高校生共通）

　　　　　　　　　　　『最優秀賞・3名』　・国際協力機構理事長賞（1名） ・外務大臣賞（1名）　・文部科学大臣賞（1名）

『優秀賞・3名』『審査員特別賞・4名』『国際協力特別賞・10名』他

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018（高校生の部）**

**一　次　審　査　実　施　要　領（案）**

1. **審査員**

全国国際教育研究協議会が指定する各県事務局により推薦された者。一次審査員の条件としては、開発課題や国際協力への理解があり、かつ作文を審査する上で相応しい能力を有した者であることが望ましい。

1. **審査期間**

2018年9月18日（火）～10月14日（日）　**※10月16日（火）エッセイコンテスト事務局必着**

1. **審査場所**

全国国際教育研究協議会が指定する各県事務局が指定する場所

1. **評価基準(現在確認中のため昨年度のもの)**

**（1）今年度のテーマの主旨**

* テーマ「世界の人々と共に生きるために　～私たちの考えること、出来ること～」

今年から「ＳＤＧｓ」という世界の新しい開発目標がスタートした。2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な開発を実現するための世界共通の目標であり、教育や保健、環境に差がある中で「誰も置き去りにしない」ことを掲げ、一人一人に焦点を当て、開発途上国、先進国も含め、すべての国の取り組みが求められている。また、政府や国際機関だけでなく、民間企業や市民社会、ＮＧＯ、教育機関の役割は益々高まっており、様々な関係者がグローバルにパートナーシップを作ることが謳われている。

かかる状況下、次代を担う若年層（中学生・高校生）の役割は重要であり、今回のテーマでエッセイを書くことを通じて、世界の様々な開発への課題に関心を持ち、中学生・高校生でも、一人ひとりがそれらを自らの問題と捉えれば、国際社会の一員として行動ができることに気付くきっかけとなることを期待する。

**（2）審査基準と点数配分**

　審査に際しては、以下の点数配分を参考にしてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 審査基準 | 点数配分 |
| * テーマ「世界の人々と共に生きるために　～私たちの考えること、出来ること～」と合致した内容になっているか？
* 実際に何かを行ってみた経験や、未来の行動につながる体験や出来事、さまざまな出会い、見聞きして感じたこと、考えたことが自分らしく自由に表現されているか。
* 中学生・高校生の目線で書かれた、同年代の生徒たちの心を動かすような、アピール性のある作品となっているか。
 | 60% |
| * 開発課題、国際協力に対してよく理解されているか。
 | 30% |
| * 読みやすい文章であるか。（文章の巧みさ、誤字脱字の状況等）
 | 10% |

* + 海外渡航経験者の作品は具体性や説得力があり、上位に残りやすい傾向にあるが、海外経験が全くない生徒の、日常生活の中の身近な出来事、国内での地道な活動を通じたさまざまな出会い、関わり合いからの気づきなどにも着眼すること。
	+ 本コンテストの実施目的は、国語力の向上ではないため、作文添削のような採点（誤字脱字のチェック等）や、文字の上手下手よりも、作品のインパクトや生徒独自の意見、視点などに比重を置いた評価をする。
1. **作品の授受および選出方法**

**（１）作品の選出**

* 二次審査への選出作品数は作品送付時に通知する。
* 一次審査の倍率は**150倍（150作品に対して1作品選出）**が目安。

**（２）審査謝金**

* 一次審査謝金は、審査作品数に応じて支払う。
* 支払基準は**、108円／1作品。**
1. **今後のスケジュール**

|  |  |
| --- | --- |
| 7月上旬 | 覚書締結（事務局⇔国際研）国際研より各県事務局長宛てに一次審査員推薦の依頼文書を送付 |
| 8月24日（金） | 「一次審査員リスト」「各県事務局振込口座」を事務局宛に提出 |
| 8/31（金） | 審査員決定 |
| 9/11（火） | 応募締切 |
| 9/18（火） | 一次審査作品の送付（オリジナル）および必要書類の送付(9月21日着の日付指定) |
| 9月下旬 | **事務経費の支払い（11,000円／県）** |
| 10/16(火)必着 | 各審査員は、審査結果をエッセイコンテスト事務局まで返送 |
| 11月上旬 | 審査謝金支払 |

1. **その他留意事項**
* 作品の盗作確認について

一次審査を通過した作品は基本的に何れかの賞を受賞することになりますが、近年、二次審査や最終審査の段階で盗作があったことが発覚し、受賞が取り消しになるケースが多く見られます。そのため、事務局でも留意しておりますが、審査の段階でも可能な範囲でご留意いただけたら幸いです。

|  |
| --- |
| 【お問い合わせ先／書類提出先】　＊JOCAの事務所が変わりました。公益社団法人　青年海外協力協会　　〒399-4115　長野県駒ケ根市上穂栄町6-2JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018全国運営事務局 担当：伊東／加藤TEL：0265-98-0445　　FAX：0265-98-0838　　E-mail：jica.essay@joca.or.jp |

**全国国際教育研究協議会　　会則・細則　改訂**

＊平成29年5月25日全国総会で大幅改正されたものです。再度ご確認ください。

**１　全国国際教育研究協議会（略称　全国国際研）会則（五訂版）**

第１章　　総則【名称・目的・事業】

第１条　本会は、全国国際教育研究協議会と称し、事務局を会長の指定するところに置く。

第２条　本会は、学校における生徒の国際教育活動の向上充実を図り、国際社会に貢献できる人材育成と国際教育の振興に資することを目的とする。

第３条　本会は、その目的達成のため次の事業を行う。

　　（１）全国国際教育研究大会の開催

　　（２）国際教育に関する研修会・講習会等の開催

　　（３）国際教育に関する弁論大会・研究発表会等の開催

　　（４）国際教育に関する調査・研究及び報告書等の刊行

　　（５）その他本会の目的を達成するための事業

　　　　第２章　　組織【会員資格・各地区】

第４条　本会は、正会員及び賛助会員で組織する。

　　（１）正会員　　各都道府県（高等学校）国際教育研究協議会

　　（２）賛助会員　本会の趣旨に賛同する団体等

第５条　正会員の休会または賛助会員の加盟は理事会の承認を必要とする。

第６条　本会には次の各地区に協議会を設け本会の目的達成のための事業を推進する。

　　（１）北海道・東北地区（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）

　　（２）関東・甲信越静地区（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野・新潟・静岡）

　　（３）東海・北陸地区（愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井）

　　（４）近畿地区（滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫）

　　（５）中国地区（鳥取・島根・岡山・広島・山口）

（６）四国地区（徳島・香川・愛媛・高知）

　　（７）九州地区（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄）

　　　　第３章　　役員【選出・職務・任期】

第７条　本会に次の役員を置く。

　　（１）会長　　　　　　　　１名

　　（２）副会長　　　　　　若干名

　　（３）理事　　　　　　　若干名

（４）監事　　　　　　　　２名

　　（５）顧問　　　　　　　若干名

第８条　本会の役員の選出及び職務は次のとおりとする。

　　（１）会長、副会長及び監事は理事会の推薦に基づき、総会において選出する。

　　（２）会長は本会を代表し会務を統括する。

　　（３）副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する。

　　（４）理事は各都道府県事務局長等より会長が委嘱し、会務を執行する。

　　（５）監事は会計を監査する。

　　（６）顧問は会長が委嘱し、必要に応じて諮問に応ずる。

第９条　役員の任期は原則として１年とする。但し、再任を妨げない。

なお、欠員が生じたときは必要により補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

　　　　第４章　　会議【構成要件・議決】

第10条　本会に次の会議を置き､会長が招集する。

　　（１）総会

　　（２）理事会

第11条　本会の会議は構成定員の3分の2以上の出席で成立する。

第12条　本会の会議の議決は出席者の過半数とし、可否同数の場合は会長が決する。

第13条　総会は年一回開催し、次の事項を議決する。

　　（１）予算・決算並びに事業に関すること

　　（２）役員に関すること

　　（３）会則等の変更及び改廃に関すること

　　（４）その他必要な事項

第14条　理事会は会長、副会長、理事等で構成し、次の事項を協議し会務を執行する。

　　（１）総会に付議すべき事項

　　（２）本会の運営等に関する細則の制定、または改廃

（３）その他会長が必要と認めた事項

　　　　第５章　　会計【会費・監査】

第15条　本会の経費は、会費、助成金、寄付金、賛助金その他をもって充てる。

第16条　本会の正会員は会費を当該年度7月末日までに納入する。

第17条　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第18条　本会の会計及び事業等は監事による監査を行い､結果は総会に報告する。

　　　　第６章　　附則【施行・細則】

第19条　本会則の施行に関する細則は､理事会において別に定める。

第20条　休会となっている都道府県においては、再加盟するまでの期間は個人登録を認め賛助会員とする。細則については別途定める。　　　　　　　　＊休会県のみ、個人登録の賛助会員を認める。

第21条　本会則は平成29年5月総会で議決し、議決後ただちに施行する。

　　　　　昭和45年10月13日施行

　　　　　昭和46年5月28日一部改正

　　　　　昭和49年5月30日一部改正

　　　　　昭和51年6月3日一部改正

　　　　　昭和53年5月25日一部改正

　　　　　昭和58年5月26日一部改正

　昭和60年度総会（昭和60年5月30日）において全国高等学校海外教育研究協議会を

　　　　　全国高等学校国際教育研究協議会と名称変更する。

　　　　　平成15年度総会（平成15年5月30日）において全国高等学校国際教育研究協議会を

　　　　　全国国際教育研究協議会と名称変更する。

　　　　　平成24年5月24日一部改正

　　　　　平成29年5月25日改正

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**２　全国国際教育研究協議会会則及び全国理事会・事務局に関する細則**

第１条　会則第1条の事務局は、原則として東京都に置く。

第２条　会則第1条の事務局の構成については下記のとおりとする。

　　（１）全国事務局は、東京都国際研事務局及び会則第8条により選出された理事で構成する。

　　（２）全国事務局長は、東京都国際研事務局より選出し、事務局を統括する。

　　（３）全国副事務局長は、会則第3条及び第14条の業務（庶務・渉外・会計・広報・編集等）を分担する。

　　（４）会則第8条により選出された理事は全国事務局員として上記（３）の業務を分担するほか全国国際研大会の業務を補佐する。

第３条　会則第3条の事業のうち、（１）は最も重要な主催事業、（２）は主として教員（指導者）関連事業、

（３）は主として生徒関連事業、（４）はインフォメーション等の刊行事業、（５）は前記以外の事業。

第４条　会則第5条の正会員の休会については、当該会長名による事由を付した書面により届け出ること。その際、原則として事後の事務処理等を行う学校及び担当者を決めておくこと。

第５条　会則第４条、第５条及び第20条の団体以外の賛助会員については下記のとおりとする。

　　（１）休会期間中の都道府県の当該教職員は、全国事務局長に申請し賛助会員としての承認を得ること。

　　（２）上記（１）により承認された賛助会員（個人）は、会則第１６条に準じて会費1000円を納入すること。

（３）賛助会員資格は単年度とし、年度を越える場合は更新すること。

　　（４）賛助会員は、会則第３条の（３）を除く事業への参加資格を得ることができる。

（５）賛助会員の所属する学校の生徒は、会則第３条の（３）の出場資格は得られないが交流会等への参加は可能とする。

第６条　会則第６条の休会県における再加盟は複数校で構成し、正会員として申請すること。再加盟後当面1校あたり3000円の会費とする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 賛助会員休会県の個人加盟 | 再加盟（正会員）複数校で学校加盟し、県内組織を作る。 |
| 情報提供・インフォメーションの配布全国研究大会参加、生徒の交流会等への参加 | ○ | ○ |
| 全国研究大会　分科会発表 | ○ | ○ |
| 全国研究大会英語・日本語弁論大会出場 | × | ○ |
| 全国研究大会国際理解・国際協力に関する研究発表会出場 | × | ○ |
| 会費 | 個人会費1000円 | 当面の間１校あたり3000円 |

第７条　会則第７条及び第８条の役員については下記のとおりとする。

　　（１）会長は、原則として東京都国際研の会長とする。

　　（２）副会長は会則第6条により構成する各地区の会長及び会則第３条（１）の全国大会を開催する当該年度の会長とする。

　　（３）理事は会則第８条の（４）により選出された各都道府県事務局長等及び東京都国際研の役員とする。

（管理職）

１）次年度全国研究大会開催都道府県の会長

２）東京都国際研管理職より若干名

３）本会の理事として活動する各都道府県の管理職

　　　（教員）

1. 全国事務局長1名

２）副事務局長（渉外、全国会計、広報等）若干名

３）本会の理事として活動する各都道府県の教員（役割分担を別途定める）

　　（４）監事は会則第６条（２）の地区の会長または東京都国際研の副会長とし、総会において報告すること。

　　（５）顧問は理事会で推薦し会長が委嘱する。

第８条　会則第10条の総会及び理事会の議長は原則として会長または副会長があたる。

第９条　会則第10条及び第14条の理事会については下記のとおりとする。

　　（１）理事会は当面年2回（全国国際研前日及び2月）開催し、会則第11条、第12条及び第14条を適用する。

（２）上記の理事会開催における構成員の経費（交通費・宿泊費）は全国会計から支出することができる。

第10条　会則第15条及び第16条の会費等については下記のとおりとする。

　会費は現時点で30，000円。当該年度会費の納入は７月末。

第11条　本細則第５条の賛助会員申請様式及び第6条の再加盟申請様式は別途定める。

第10条～第14条

理事会を定期的に開催し、現行では年２回（全国大会前日と２月）とする。理事会は、いずれも文書で当該開催日の1ヶ月前にはメールで案内する。各構成員が欠席の場合はいずれも委任状が必要。いずれの会議も協議事項と連絡事項等を明確にしておく。

第19条　 細則（運用規定・申し合わせ事項等）について

（１）全国国際研究協議会会則及び全国理事会及び事務局に関する細則

（２）全国国際教育研究大会開催基準規程、開催要項及び運営要領に関する細則

（３）高校生英語弁論大会・高校生日本語弁論大会に関する細則

（４）高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会に関する細則